

平成3年度（30年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	市民政策局
	政策	安全で安心して暮らせる社会環境の形成		課(室)名	くらし安全安心課
	施策	交通安全対策の充実		電話番号	087-839-2555
	基本事業	交通安全教育・啓発の推進		事業実施主体	市
	事務事業	交通安全教育等推進事業		事業期間	平成28年度～令和5年度

【事業全体概要】

事業の概要	幼稚園、保育所、こども園、小・中学校等において、歩行教室や自転車安全運転教室などの交通安全教室を開催するほか、高齢者等を対象とした反射材教室、高齢者教室などの交通安全教室を開催する。また、交通安全意識の向上を図るため、関係機関・団体等と連携して、交通安全運動の展開や街頭キャンペーンなど交通安全の啓発活動を実施する。				
3年度概要	交通指導員、事務員人件費、交通安全都市推進協議会補助金、交通安全母の会連絡協議会ほか2団体補助金その他(幼、保、こ、小・中交通安全教室、高齢者等交通安全教室の開催など)				
重点取組事業	市長マニフェスト	事務事業の類型	ソフト事業（法律による実施義務無）		

【事業の目的】

対象(何を)	幼稚園、保育所、こども園、小・中学校の幼児、児童、生徒 地域の交通安全指導者 老人クラブ会員等
意図(どのような状態にしたいか)	幼児、児童、生徒に交通安全の基礎知識を身に付けてもらう。 地域の交通安全指導者に交通安全や街頭指導の知識を習得してもらい、指導者を通じて地域へ波及させる。 高齢者に交通安全の知識を身に付けてもらう。

【事業の活動】

活動指標名(具体的にどのような活動をしたか)	単位	H28	H29	H30	H31	中期目標 R2
幼稚園、保育所、小学校、中学校での交通安全教室の開催数	回	361	359	362	380	380
高齢者交通安全教室等の開催数	回	975	1,191	1,196	1,120	1,120

【事業の成果】

成果指標	成果指標名(どのような成果が得られたか)	単位	種別	H28	H29	H30	H31	中期目標 R2
成果指標	幼稚園、保育所、小学校、中学校交通安全教室参加者数	人	目標値	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000
	実績値	34,204	34,038	33,539				
成果指標	成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか) 目標値の約9割だったものの、概ね達成できた。(目標達成度)							(達成度) 93.2% 32点
	成果指標	高齢者交通安全教室等参加者数	人	目標値	4,600	4,800	5,000	5,000
	実績値	4,073	4,428	4,430				
成果指標	成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか) 目標値の約9割だったものの、概ね達成できた。(目標達成度)							(達成度) 88.6% 31点

【コストの推移】

指標名	単位	平成28年度(決算)	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	平成31年度(予算)
トータルコスト	[円]	45,785	44,929	43,112	43,100
(事業費)	[円]	26,157	25,961	24,207	24,195
(職員人件費)	[円]	19,628	18,968	18,905	18,905

【評価】

評価ランク (A~D)	A	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、廃止)	継続
-------------	---	---------------------------	----

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

各世代に対する交通安全教室では、直近の交通環境や身近な課題などに対応できるような内容とするよう配慮して実施した。

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入)

引き続き、交通安全教室の実施内容については、体験型学習を増やすなど、参加した市民が理解、実践しやすい方法を工夫する。

平成3年度（30年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	市民政策局
	政策	安全で安心して暮らせる社会環境の形成		課(室)名	くらし安全安心課
	施策	交通安全対策の充実		電話番号	087-839-2555
	基本事業	交通安全教育・啓発の推進		事業実施主体	市
	事務事業	交通安全啓発推進事業		事業期間	平成28年度～令和5年度

【事業全体概要】

事業の概要	交通安全フェアの開催や交通事故死ゼロを目指す日一斉キャンペーンなど、市内統一街頭キャンペーンを開催することで、交通安全に対する意識向上を図り、交通事故防止を促進する。			
3年度概要	啓発塔管理費等一般管理経費			
重点取組事業	市長マニフェスト	事務事業の類型	ソフト事業（法律による実施義務無）	


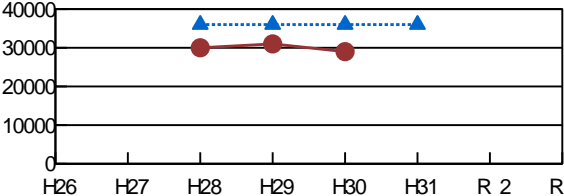

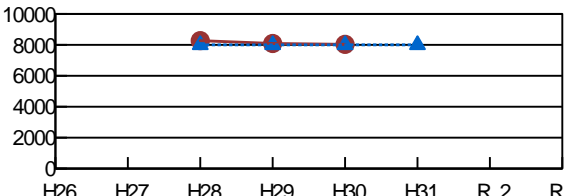
【事業の目的】

対象（何を）	高松市民
意図（どのような状態にしたいか）	交通安全意識や交通ルール、マナーを守る意識を広める。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H28	H29	H30	H31	中期目標 R2
交通安全フェア開催日数	日	2	2	2	2	2
統一街頭キャンペーン実施回数	回	3	3	3	3	3

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H28	H29	H30	H31	中期目標 R2
交通安全フェア参加者数		人	目標値	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000
			実績値	30,000	31,000	29,000		
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 開催初日の天候の影響もあり、昨年度より2,000人減少し、目標値の8割程度に留まった。 (目標達成度)								(達成度) 80.6% 28点
統一街頭キャンペーン参加者数		人	目標値	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
			実績値	8,272	8,088	8,032		
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 目標値を上回る参加者数となった。 (目標達成度)								(達成度) 100.4% 35点

【コストの推移】

指標名	単位	平成28年度（決算）	平成29年度（決算）	平成30年度（決算）	平成31年度（予算）
トータルコスト	[円]	12,720	12,467	12,513	10,739
（事業費）	[円]	1,729	1,845	1,926	152
（職員人件費）	[円]	10,991	10,622	10,587	10,587

【評価】

評価ランク (A~D)	A	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、廃止)	継続
-------------	----------	---------------------------	-----------

【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）

各地域で実施している各種交通安全に関する行事は、ボランティアで参加する者の負担を増やさないよう適切な援助を行い、実効力を低下させない工夫が必要である。

【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）

交通安全フェア及び交通安全キャンペーンは、広く市民に認知され参加者も多く、交通安全事業としての意義も大きいことから、より一層効果的な交通安全啓発の向上を図れるよう事業内容を工夫しながら実施する。

平成3年度（30年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	市民政策局
	政策	安全で安心して暮らせる社会環境の形成		課(室)名	くらし安全安心課
	施策	交通安全対策の充実		電話番号	087-839-2555
	基本事業	交通安全教育・啓発の推進		事業実施主体	市
	事務事業	高齢者交通安全啓発推進事業		事業期間	平成28年度～令和5年度

【事業全体概要】

事業の概要	高齢者に、加齢による身体能力の低下の自覚と危険予測の考え方を身に付けてもらえるよう、参加体験型の交通安全教育の普及に努めるとともに、高齢者の自主的な運転免許証返納の促進策として、ICカード乗車券を交付することにより、高齢者が関係する交通事故の減少を図る。				
	3年度概要	高齢者運転免許証返納促進事業 シニアイルカカード、JRIヨカカード(1万円×1,260件)など 高齢者交通安全教室、交通安全高齢者自転車大会等の開催 交通安全フェア開催その他			
重点取組事業	特別重点	市長マニフェスト	6-	事務事業の類型	ソフト事業(法律による実施義務有)

【事業の目的】

対象(何を)	高松市の高齢者(65歳以上)
意図(どのような状態にしたいか)	運転免許証の自主返納により、高齢者が当事者となる交通事故が減少する。 体験型の交通教室の実施により、高齢者自身が加齢による身体能力の低下を自覚し、危険予測の考え方の普及や交通安全知識の向上が図られる。

【事業の活動】

活動指標名(具体的にどのような活動をしたか)	単位	H28	H29	H30	H31	中期目標 R2
高齢者交通安全教室等の開催数	回	975	1,191	1,196	1,120	1,120

【事業の成果】

成果指標	成果指標名(どのような成果が得られたか)	単位	種別	H28	H29	H30	H31	中期目標 R2
成果指標	I Cカード乗車券交付申請者数	人	目標値	1,030	1,100	1,100	1,100	1,100
	実績値	1,083	1,168	1,250				
成果指標	成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか) 交付申請は順調に増加したため、目標値を上回る申請者数となった。 (目標達成度)							(達成度) 113.6%
	35点							
成果指標	高齢者交通安全教室等参加者数	人	目標値	4,600	4,800	5,000	5,000	5,000
	実績値	4,073	4,428	4,430				
成果指標	成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか) 目標値の約9割だったものの、概ね達成できた。 (目標達成度)							(達成度) 88.6%
	31点							

【コストの推移】

指標名	単位	平成28年度(決算)	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	平成31年度(予算)
トータルコスト	[円]	13,850	16,655	16,200	17,981
(事業費)	[円]	9,924	12,861	12,419	14,200
(職員人件費)	[円]	3,926	3,794	3,781	3,781

【評価】

評価ランク (A~D)	A	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、廃止)	継続
-------------	---	---------------------------	----

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

高齢者向けの各種啓発事業は順調に進展しているが、交通安全の啓発対象となりにくい大学生や成人の自転車乗用マナーの苦情などが寄せられている現状を踏まえ、より効果的な啓発方法を検討する必要がある。

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入)

更なる高齢者の運転免許証の自主返納を促すため、効果的な周知啓発に努めるほか、民間企業との連携を図り、高齢者以外の世代を対象とした自転車に関するセミナーを開催するなど啓発活動を拡充する。